

2003年にローイングマニュアルを自費出版し、期待を超えて多くのコーチ、クルー、そして初心者の方にも評価していただいた。それに勇気づけられて約2年後に改訂版として「2005」を、懲りずに自費出版するに至った。もちろん初版(RM2003)がベースなので、最初は、2003版の多くの誤字、誤記を修正することから始まったが、書き残していたことや、新しく書き加えたいことをコツコツやっていたら、1.5倍近くにもなってしまった。多けりや良いつてもんじゃないので削るべきところ削りたいのだが、それができないまま、こんなになって…  
せつかく誤字脱字を減らしたつもりが、きつと新しいページにはまたどっさりあるんだらうな…(冷や汗)

RM2003の二番煎じになるが、あらためて、技術マニュアルを読んでいただくにあたり、以下のことを記しておくたい。

このローイングという、伝統的かつ正統的なスポーツのひとつに、価値観の焦点を合わせ、誇りをもって打ち込み、社会の混沌とは一線を画し、スポーツを純粋な世界、社会の不条理とは別世界？に身をおくことに、陶醉できる人もいよう。しかし、世界をあらためて見回せば、「スポーツどころではない」という国や地域、事件・事故が、そこかしこにあることを知らされる。

貧困や厳しい生活環境のなかで、日々をどう生活するか、どう生き抜くかが最大の課題であり、国家間の紛争や内戦、テロリズムの横行に、あるいは暴力の応酬に、身を守ることに、平和を築くことがなによりも最優先の問題であり、あるいは深刻な環境汚染や人心の荒廃に蝕まれていたりする。世界の人々が、平和で理想的な未来を描くことに、不安や困難さを感じる時代になってきている。



投石を受け、顔面から血を流しながらも、幼児をかばいパキスタン領内に逃げ込むアフガンの難民女性（毎日新聞 2001.11.24/12A/p.27）

その社会の中でローイングするとき、「そうやって安穏とボートを漕いでいて良いのか？」と自問させられる。厳しい紛争や自然の中で生き繋いでいる人たちと、ローイングの場を、仮に同時・同じ場所に並べたときに、はたして平気で漕いでいられるのか？「勝利目指して全力で」などと言われているのかということだった。もし同じ場所になんかだけを頼りに、まがりなりにも平和で経済的に恵まれた国の中だけで、楽しんでいる(あるいは打ち込んでいる)のだとすれば、それは本当にそれで良いのか？

このマニュアルで安易に技術のみをテイクしないで欲しい。ローイングに真剣に取り組むとは、勝利を目指すだけを意味しない。漕ぐことを通じ、あなたの人生を問いたい。

作成 20050614 改訂 20221211

スポーツという世界だけを尺度にすれば、例えばオリンピックで世界中の国が集まったとか、欧米諸国に比べ日本はまだまだとか、金メダルの数も減ったとか、それはそれで、現実のひとつではあるのだけれど。しかし、とりあえず、スポーツにボートに打ち込めることができる環境にあることに、私たちは先駆の労苦に感謝しなければならない。

この、たかがスポーツができるという環境さえ、非常に華奢なバランスの上の、つかの間のパラダイスかもしれないのだから。しかしスポーツを楽しむことさえ難しい人たちがいることを、常に、決して忘れてはいけない。だけれども、ここで私がいいたいのは、「だから感謝して、ローイングというスポーツに打ち込め」ということではない。

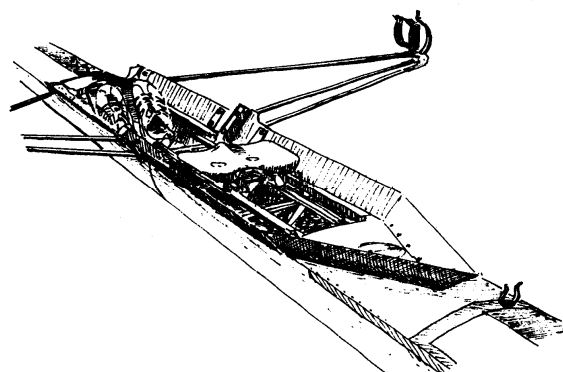
言いたいのは、スポーツやローイングだけが、世間から隔離して、純粋な孤高の世界というわけではないということ。すべては、連携している。だからこそ、言いたいのは、

『ローイングをすること、あるいはその取り組みの姿勢を、世界とのつながりの中で意識し、形作ってほしい』ということだ。

決して安易になってほしくない。ただ単に、楽しいからだとか、競いあうことや勝利追求の動機「だけで」結論づけるのではなく、あなた自身のかけがえのない、大切な人生の過ごし方の一部として、あるいは同時代を生き抜く世界中の多様な生き様の一人として、このスポーツに真剣にとりくんでほしい。ローイングへの取り組み方が、あなたの生活と人生に影響し、あなたの家族や社会へ、次の世代へ影響を与える。あなたがとらえたワンストロークのなかの水の1分子は、戦争でわが子を失った母親の涙の一滴から受け継がれ、いつか砂漠に恵みの雨の一滴に含まれるのかもしれない。あなたが流した汗の一滴が… だから。

このスポーツをするという行動を通して、あなたの人生の中で、この現代の社会と、そして未来の世界に、あなたがどう生きるかを問われている。真剣に、少なくともまじめに(ふざけないで)ローイングをしてほしいのだ。真剣さとは、ただ勝利のためにベストを尽くせということとは、すでに別の次元の話である、ということに気をつけてほしい。

このマニュアルは、主にローイングの技術的側面に焦点をあてて記述している。しかしむしろ、本当に伝えたいのは、どうやってローイングをするか、どうやってコーチングをするかの姿勢についてなのだ、ということを理解してほしい。



漕ぐことで自分がどう変わるのか？